

米国マサチューセッツ大学アマースト校との果樹園連携を開始

北海道大学は、札幌農学校時代から米国マサチューセッツ大学アマースト校（UMass Amherst）との連携を進めており、近年では戦略的国際パートナー校としてその研究連携を拡大しようとしています。農学校連携から始まった繋がりは、造園設計、芝病理、根圏微生物学における教員のクロスアポイントメントももたらしてきました。両校共同出資の「2025年北大・UMA合同研究シードファンド」で採択された8件の研究申請のうち、「持続可能なブルーベリー生産のためのAI駆動精密農業：ディープラーニングによる成長、収量、品質、最適収穫時期の予測」に係り、北方生物圏フィールド科学センターの星野洋一郎教授が、UMass Amherst ストックブリッジ農学校のジャンユ・

リ（エクステンション）助教を訪問しました。

両名は2024年秋から数か月以上、オンラインでのやり取りを重ねてきましたが、5月19日（月）に初めての顔合わせとなり、ストックブリッジ農学校のページ・ラボとフェルナルド・ホール、自然科学研究院の共用温室、UMass 作物・動物研究教育農場、コールドスプリング果樹園を視察しました。マサチューセッツ州フルーツ生産者協会の助成を受け、リ助教が既に作付けしている北方栽培種のブルーベリー5種（ブルーゴールド、レカ、チャンドラー、ノースランド、ラストコール）の生育状況を確認し、また、それらを扱う生産者の農園も訪問し意見交換を行いました。北大からは国際連携推進本部の

植村妙菜学術主任専門職と環境科学院博士課程の孟 祥吉さんが帯同し、UMass農学の社会連携拠点である食糧・農業・環境センターと、両校果樹園生産物を使った共同製品開発の可能性を探り、また、異なる栽培種の気孔特性比較からの最適収穫時期予測の実験を行いました。ノースカロライナ州立大学のエマニュエル・トーレス・クエンサダ助教も駆けつけ、ドローンを使った作物の生育状況確認を示しました。マサチューセッツ州が米国の生産州2位を誇るクランベリーの活用可能性も確認する機会となりました。

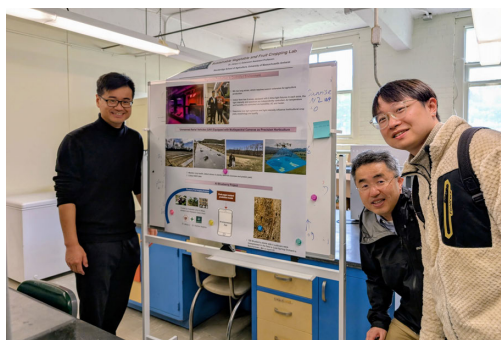
（北方生物圏フィールド科学センター）



ストックブリッジ農学校長のバオシャン・シン卓越教授と（左から2人目）



フェルナルド・ホール



リ助教の研究室で



作物・動物研究教育農場